

2019.7 槍ヶ岳・北穂高岳山行記録

記 鳥切昇治



涸沢岳から奥穂高岳とジャンダルム

期 日 2019年7月28日～7月31日

山 域 北アルプス 新穂高～双六小屋～槍ヶ岳～北穂高岳～新穂高

メンバー 鳥切 昇治(単独)

7月28日(日) 天候:晴後曇 自宅～新穂高

日曜日でしたが渋滞も無く松本ICを出て上高地方面に走り、新穂高に向う。新穂高の無料駐車場は満車で駐車出来ず、入口近くの空き地に駐車して空きを待つ。18時過ぎに、2台の車が出て行ったので、空いた場所に車を移動する。

コースタイム

自宅 13:05—13:55 海老名IC—(圏央道・中央自動車道)—14:56 境川PA15:03
～松本IC16:08—17:45 新穂高(車中泊)

7月29日(月) 天候:曇・雨 新穂高～鏡平～双六小屋

4時、目覚ましのチャイムで起される。朝食を食べ身支度をして出発する。空はどんよりしている。山行計画書を投函して左俣林道に入る。わさび平小屋で小休止。

小池新道入口手前で左俣林道が雪崩のデブリで通行止めになっている。少し戻って右下に迂回して沢を渡り、左俣林道に戻った。こんな事は初めてだ。



小池新道入口

スパッツの隙間から雨が靴の中に入って来て濡れて来た。雨は鏡池に着く頃あがり、視界も良くなって来たが槍・穂高は雲の中で見えない。鏡平山荘前のベンチで雨具を脱ぎ、靴の中を点検したら感じていた程濡れていなかった。エネを補給してから出発する。



花見平のお花畑

中段まで登ると日差しが出て来て暑くなる。弓折岳分岐から稜線に出て花見平に向う。花見平の雪田の雪は例年より少ないが、お花畑は今が盛りと咲いている。ザックを下して花見見物をする。

双六小屋のテント場は時間が早いせい



左俣林道が通行止

小池新道に入る。秩父沢の木橋を渡った所で小休止しているとポツポツ雨が落ちて来た。歩き出して間もなく雨が強くなって来たので茂みの下で雨具を着る。



鏡平山荘



双六小屋越しに鷲羽岳

かテントが少ない。右手の草むらにクロユリが群落して咲いていた。

今日の双六小屋の宿泊者は多いとかで、二枚の布団に3人で寝て頂きますと受付で言われたが、結局一枚の布団に1人で寝られて助かった。

濡れた雨具、靴下や衣類を乾燥室で乾かす。夕方又雨が降って来た。



クロユリ

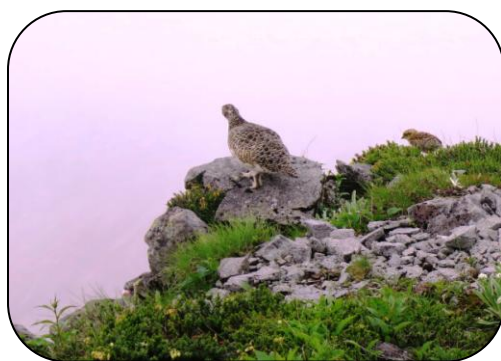
コースタイム

新穂高 5:00—笠新道入口 6:12—6:25 わさび平小屋 6:30—小池新道入口 6:55—7:38 秩父沢 7:43—イタドリヶ原 8:34—シシウドヶ原 9:30—9:50 鏡平山荘 10:27—弓折岳分岐 11:16—11:30 花見平 11:35—12:32 双六小屋(泊)

7月30日(火) 天候:曇・雨 双六小屋～槍ヶ岳～北穂高小屋

双六小屋の朝食は4:30amからで食べてから出発する。ガスで視界が悪く、風も強く寒い。樫沢岳へ登り、稜線を上り下りしながら歩く。千丈沢乗越で自宅に電話する。順調に槍ヶ岳山荘に到着。槍ヶ岳頂上はガスの中なので登らない事にする。

時間もまだ9時で北穂まで行く事にし、北穂高小屋へ宿泊予約して出発する。ガスは一向に晴れない。大喰岳を過ぎ稜線を歩いていると雷鳥の親子を見かけた。中岳を通過した後も雷鳥の親子を見かけ、3回も遭遇するなんて珍しい。天狗原分岐付近で東側のガスが切れて天狗池が見えた。南岳から下って行くとガスの切れ目に南岳小屋が見えた。小屋の前のベンチで昼食の大休止とする。



雷鳥の親子



天狗原



ヘリが飛来

キレットに向う。岩場の下りは岩が濡れて滑り易いので注意して下る。視界が大分良くなって来た。岩場の上り下りが続きA沢のコルで小休止していると横尾谷の方からヘリが飛来して来て近くでホバーリングしている。パトロールしているのか、しばらくして去って行った。

北穂への最後の登りにかかる。横尾谷側は時々ガスが切れて見えるが滝谷側は全く見えない。疲れが出て来て小屋まであと200mと白ペンキで書いてある所から結構時間がかかってしまった。

北穂高小屋に入る。天気が悪いので宿泊する人は左程多くなさそうである。明日の朝食が5時と遅いので朝食を抜きにし、出発することにした。



北穂高小屋



岩峰を登る



北穂高小屋の夕食

コースタイム

双六小屋 5:07—5:38 樺沢岳 5:40—左俣乗越 6:55—8:05 千丈沢乗越 8:09—9:04 槍ヶ岳山荘 9:14—大喰岳 10:25—中岳 11:12—南岳 11:33—11:40 南岳小屋 12:10—14:05 A沢のコル 14:08—15:31 北穂高小屋(泊)

7月31日(水) 天候:曇・晴 北穂高岳～涸沢岳～白出のコル～

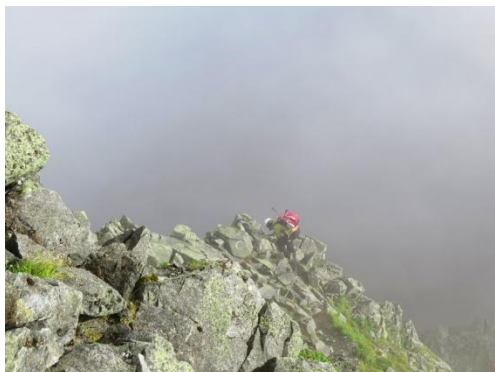
白出沢出合～新穂高～自宅

夜半、屋根をたたく強い雨に目が覚める。3Fの部屋で、暑くてもがいている時だった。明日の天気が気になった。

外に出ると濃いガスで視界が悪い。軒下で行動食を食べ、明るくなってから出発する。石段を北穂高岳山頂に上がる。四方を見るがガスで全く見えない。ガスの中、右手に松濤岩を見て涸沢分岐まで下り、奥穂方向へ向う。

雨に濡れた岩は滑るので手も使い、白ペンキを見落とさないよう慎重に歩く。白ペンキで最低のコルと書かれた所に到着。ここまで涸沢側は時折ガスが切れ見えたが滝谷側は全く見えなかった。

涸沢岳から下って来るパーティーが見える。涸沢岳へ向う。



涸沢岳から下って行く登山者



涸沢岳から下って来る登山者

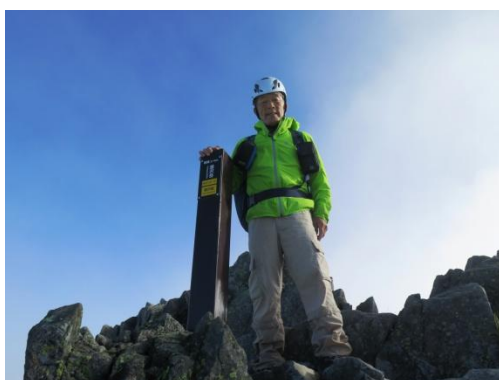
ガスが薄くなり、視界も良くなって来た。
涸沢岳山頂に立つ。

ガスが切れ、日が降り注ぎ、急に視界が広がる。前穂、奥穂、ジャンダルムが見えて来た。カメラのシャッターを切る。振り返ると槍の穂先が雲海の上に突き出ている。



北穂から歩いて来た稜線と槍ヶ岳（涸沢岳から）

北穂と歩いて来た稜線が手に取るように見える。神様が最後にご褒美をくれた。
山頂にいた家族連れに記念写真を撮ってもらい、穂高岳山荘がある白出のコルへ下る。穂高岳山荘前のベンチで作って頂いた弁当を食べる。おいしい弁当だった。



湊沢岳山頂で



穂高岳山荘

下山にかかり穂高岳山荘の右手に回り込む。標識に注意書きが書いてあって雪渓がありアイゼン、ピッケルが必要で滑落事故が起きているとある。浮石、落石に注意ともあった。

白出沢を覗くと、急斜面は一面のガラ場で下方に雪渓が見える。大小の岩石が積み重なり、どこが道なのか分り難い。道らしい所を下ると、白ペンキで○と→が書かれている岩がある。これ



白出のコルの注意書き

ところ、岩が崩れて白ペンキ印がない箇所が結構あり、ルートを外れ浮石と



白出沢の雪渓を下って来た



白出沢のガラ場を下る

歩いて来たという。後ろから小屋の人が下って来たので、雪渓の状態を聞くと150m程だと言う。彼は見る見るうちに下って行ってしまった。

雪渓の所まで下る。スプーンカットの雪渓で問題無さそうである。ストックの石突きのゴムキャップを外し雪渓に入り、慎重に下る。雪渓は表面が緩んで来ていて滑る

歩き難さにマイટેしまう。雪渓が近くなった頃、登って来る単独の登山者がいて雪渓の状態を聞くとアイゼン無しで登

がスプーンカット内で止る。雪溪の下方に来て右岸側に寄り、雪溪が消えた所を下る。左岸側に目印の枯れ木が立ててあるのが見え、再び雪溪に入り渡る。

枯れ木の目印の所からガラ場を下って行くと、登って来る単独の登山者に会い情報交換する。左岸側の涸れた沢の踏み跡を探しながら下る。今度は女性の単独登山者に会う。この沢を単独で登るとは凄い。白出沢が狭くなって来た。右下に標識が立っている。標識の所に行くと荷継沢と書かれていた。3人パーティーが休んでいた。

ここから右岸側の樹林に入り急坂を下る。しばらく下って行くと右からガレた急な沢(鉱石沢)に出た。登山道の草刈り作業をしている二人が休んでいた。沢の水で顔を洗い、喉を潤す。急なこの沢を下り、本流の右岸の岩を削って作った高捲き道をへづる。鎖やロープがフィックスされている。本流には雪溪が残って



鉱石沢を下り白出沢本流へ



重太郎橋

右俣林道はこぼれ日が射す木陰になっていて左程暑く無い。穂高牧場跡まで来ると、あと少しだと身体に言い聞かせて歩く。

新穂高の駐車場に無事戻って来た。今回の周回コースはタフだったので良いトレーニングが出来た。

いるが、ごうごうと流れる水の音が凄い迫力がある。この上が白出大滝なのか？

地図上に重太郎橋と書かれた所で白出沢を左岸側に渡り、ようやく緊張感から解放される。灌木帯と樹林帯の長い道を下り、白出沢出合の林道に出た。ヤレヤレ。



右俣林道の白出沢出合

平湯の日帰り温泉「ひらゆの森」に立ち寄り汗を流す。帰路は甲府に入ると、大月

—相模湖間で火災が発生し11kmの渋滞と表示板に出ていた。境川PAでトイレ休憩して本線を走ると談合坂SAの4km手前から渋滞に入り、抜けるのに2時間以上もかかった。渋滞を抜けてからは順調に走り、自宅に無事帰り着いた。

コースタイム

北穂高小屋 4:50—北穂高岳山頂 4:53—涸沢分岐 5:12—6:00 最低のコル 6:05—7:00 涸沢岳 7:15—7:25 穂高岳山荘 7:53—9:31 荷継沢 9:40—10:34 重太郎橋—11:30 白出沢出合—13:05 新穂高 13:25—13:45 ひらゆの森 14:25—19:45 自宅

以上